

# 事務事業評価票[市単独補助金] 平成31年度

		担当課		市民安全課			
基本事項	補助金(事業)名	島原防災塾運営委員会補助金				整理番号	0709
	根拠法令等	島原防災塾運営委員会補助金交付要綱			実施を義務付ける規定		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第4章 安全・安心と安らぎの環境を整える 節 第4節 消防・防災の推進	予算科目	9 講 1 項 4 目	実施期間	始期 平成 26 年度から 終期 平成 年度まで	
事業の概要等	補助金交付の対象(団体名等)	島原防災塾運営委員会					
	事業の背景及び概要(現状、課題)、または交付団体の活動目的、活動内容など	雲仙普賢岳噴火災害から28年が経過し、当時被災された方の意識も薄らぎ、風化していくのではと危惧されている。そのような中、未来を担う子供たちに雲仙・普賢岳噴火災害の噴火災害や土砂災害を座学や体験学習を通して、地域の生い立ちに関心を持ってもらい、将来に渡って災害を伝え、語り継がれていくことを目的とする。					
	目指す成果 (交付対象団体等をどのような状態にしたいのか)	島原防災塾の構築により、雲仙・普賢岳の噴火災害の記憶を風化させないよう、次代を担う子ども達に伝承し、後世に継承する。また地域での住民同士の交流も進み、大人と子供たちの交流の場もでき、コミュニティの創造や育成につながるとともに、地域防災力の向上にも貢献する。					
事業費等の推移	補助金交付内容等 (積算基礎等)	島原市内全小学校4年生～6年生希望者 50名(保護者含む) 雲仙・普賢岳噴火災害の伝承に係る経費 ①座学を行う会場借上げ ②屋外学習を行うためのバス借上げ ③参加記念品などの経費 として積算					
	年度区分	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	31年度 予算額	
補助金交付額(千円)	300	270	270	270	270		
① 団体等事業費(千円)	822	283	271	280	270		
② 会費等 歳入内訳 (千円)							
前年度繰越金	0	0	0	0	0		
市補助金	300	270	270	270	270		
その他の助成金	522	13	1	10			
その他雑収入							
次年度繰越金 (②-①)	0	0	0	0	—		
<b>30年度の当該団体等の事業費の主な内訳(市補助金が充当されていると思われるものから順に記載)(単位:千円)</b>							
項目		金額	項目		金額		
事務費		4					
バス借り上げ料		42					
交流会費		100					
印刷費		105					
食糧費		29					
補助金の用途についての特記事項等							

## ◎1次評価(自己評価)

### ○視点別分析

視 点	現 状 分 析	説 明
① 助成事業の効果	<input checked="" type="radio"/> 意図した効果があがっている <input type="radio"/> ある程度効果がある。 <input type="radio"/> あまり効果がない <input type="radio"/> 分析できない <input type="radio"/> 事業効果は後年度	雲仙復興事務所、九州大学、災害復興記念館、地元の災害を語り継ぐ方々の協力を得てそれぞれの立場から、専門的な知識、貴重な体験談、体験学習等を受けることができ、参加した子供達や保護者からのアンケートでは、噴火災害の恐ろしさや命の尊さを感じたなどの感想や感謝が寄せられている。また、非常に興味がわき続けて学習していきたいとの声もあり、意図した効果が上がっている。
② 市の関与の必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性は薄れていない <input type="radio"/> 少し薄れている <input type="radio"/> 薄れている <input type="radio"/> 不明 <input type="radio"/> 該当しない	雲仙復興事務所、九州大学、災害復興記念館、地元の災害を語り継ぐ方々との調整、および普段は立ち入ることができない警戒区域などの入山などは市が関与しなければスムーズな運営ができないので、引き続き市の関与が必要である。
③ 団体の事業内容や助成の在り方等の見直し必要性	<input checked="" type="radio"/> 見直しの必要はない <input type="radio"/> 検討の余地はある <input type="radio"/> 見直しの必要あり	国土交通省雲仙復興事務所の今後の関与の在り方次第では、市の果たす役割がますます拡大するのではと思われるが、現在見直しは必要ないと考えている。

### ○総合評価と今後の方向性

総 合 評 価	判 定	<input checked="" type="radio"/> A 繼続(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 見直しのうえで実施 <input type="radio"/> B1 事業規模の拡大 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善 <input type="radio"/> B4 その他の見直し <span style="text-align: right;">休止・廃止の具体的方向性</span>
		<input type="radio"/> C 休止(隔年実施など)      → ( ) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定も含む)      → ( )
今後の課題と見直しの方向性(総合評価判定がB1~B4の場合)	判 定 理 由	
	課 題	
	見 直 し 性 の 方 向	

### ◎2次評価

判 定	A1特段の見直しを行わず、現行のまま継続
備 考	雲仙・普賢岳噴火災害の理解と伝承、防災の機運を高める目的に加え、世代間の交流事業の一面もあり、地域活動の活性化促進に寄与するものである。

### ◎3次評価

判 定	
備 考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況(□)				
<input type="checkbox"/> 補助額の削減	<input type="checkbox"/> 補助額の増加	<input type="checkbox"/> 補助の休止若しくは廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	⇒ 予算措置額の増減 0千円
備考				

( 島原防災塾運営委員会補助金 )